

私の写生地

山に魅せられ20年

会員 栗又 功雄

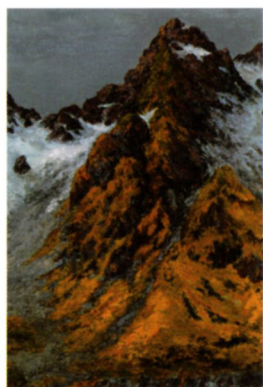
私が油絵を始めたのは、建設現場の勤務を終え本社勤務になってからです。水嶋靖博さんの紹介で大内田茂士先生の教室に通い油絵の手ほどきを受けました。その教室で静物や人物、たまに外に出て写生など基礎を教えて頂きました。

学生時代、山が好きで山登りの会に入っておりまして。会社を辞め、時間のゆとりもできましたので、昔の仲間と登山を再開しました。必然的にモチーフも山になりました。最初に描いたのは北アルプスの西穂高岳です。ここはロープウェイで2千メートル以上まで行けます。残雪も多い5月、穂高連峰から槍ヶ岳まで北アルプスの峰々に感動し、スケッチブックを取り出し、雪の上でのスケッチでした。

これからのモチーフは「山」と決め、登って描くことにこだわってききました。

涸沢周辺

氷河時代にできた涸沢カールからの眺めは魅力がいっぱいあります。中でも涸沢ヒュッテから眺める北穂高岳はすごい迫力で迫ってきます。北穂高の頂上が劇画のこぶしのように頭上に降りかぶってきます。その迫力をどうしたら表現できるか、何度も行ってみていますが、まだ実現出来ていません。涸沢は季節によって違った魅力がありますので何度行っても飽きません。



▲ 「北穂高南陵」

蝶ヶ岳より

蝶ヶ岳から眺める北アルプスは槍ヶ岳から穂高までのパノラマが広がり、まさに絵はがきの様です。あまりにきれいすぎて絵のモチーフとしては採用できません。どこを切り取るか何枚かスケッチし、制作しました。



▲ 蝶ヶ岳よりスケッチ

「蝶ヶ岳より穂高岳」

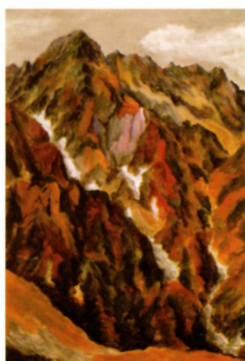


劔岳周辺

劔岳も好きな山です。「大日岳からの劔がいいぞ！」と言う先輩の勧めで大日岳に登って描きました。この時の構図は全部が入りすぎてうまくいきませんでした。その後何度か登り、紅葉の仙人池からの劔は圧巻です。劔の中で手軽に行けるのは劔御前から少し登る岩と残雪の劔。何度か描きました。



▲ 「槍ヶ岳より穂高連峰を望む」



▶ 「劔岳」

槍ヶ岳より
私が所属している日本山岳画協会が毎年槍ヶ岳の小屋と提携してスケッチ教室を開いています。槍からの穂高は好きな構図です。

白馬岳周辺

後立山連峰も絵になるところが多い山々です。鹿島槍、五竜岳、白馬鍾、杓子、白馬岳などは町からも見えるので写生に行かれた人も多いと思います。

私は山に入って山の迫力を感じて描きたいと、白馬の大雪渓を登り、杓子、白馬鍾を超え、白馬鍾から白馬岳を描きました。頂上直下の這松の中に陣取り杓子のなだらかな斜面と白馬までの稜線、雄大な北アルプスの山並みは好きな構図です。

数年前、高校生になった孫と婿さんで八方尾根を登りました。唐松岳の頂上から五竜を描き、もう一枚白馬方面を描きました。天気は快晴、立山・劔もよく見え快適なスケッチでした。



▲ 唐松岳よりスケッチ (写真)



▲ 「五竜岳」

八ヶ岳

比較的手軽に行けるのは八ヶ岳です。美濃戸から赤岳鉱泉に入り、中山乗越の展望台から阿弥陀岳を描きます。朝日を浴びた阿弥陀岳は神々しく映えています。

台風が去り、2、3日天気が安定しているので急遽山支度して硫黄岳に登ります。風が強く岩に張り付いて北八ヶ岳の天狗岳を描きます。翌日硫黄岳の頂上から赤岳、横岳を描きます。風は相変わらず強かったが祠のような小屋の陰で描きます。



▲ 「硫黄岳火口」

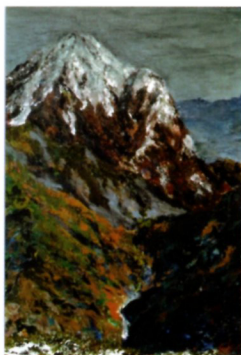


最近では東天狗岳の頂上から硫黄岳の火口を描きました。逆光で色がはっきりせず自分の感じた色でスケッチしました。



▲ 硫黄岳よりスケッチ (写真)

◀ 「赤岳と横岳」



▲ 「甲斐駒ヶ岳」

南アルプス仙丈岳より
仙丈岳は学生時代から思い出深い山です。昔は北沢峠まで入るのに伊那から戸台までバスで入り戸台川の川辺を歩き一日がかりでしたが、今は甲府からバスで入れます。
やまの仲間と北沢峠の小屋に入り翌日分かれて自分は小仙丈まで登り、甲斐駒を描きました。
その最愛の親友は昨年他界しました。

これからの山
最近、体力がめっきり衰えました。好きな山に登り、好きな所で描くことが厳しくなりました。これからはなるべく労力を使わず、いい山が描けるところを探していかなければならないと痛感しております。